

戸澤信義氏編箕面山昆虫目録に追加すべき蛾 (1)

白 井 忠 治

UNRECORDED MOTHS FROM MINOO-SAN (HONSHU) (1)

By TADAHARU SHIRAI.

昭和7年、大阪府發刊の史蹟名勝天然紀念物調査報告、第2輯「名勝箕面山」の附録として編せられた上記箕面山昆虫目録には約2500種の昆虫を収載し、其の配列の斬新なりし事及び極めて珍奇なる種を包含せる事等により大阪地方の昆虫研究者を裨益せし事は尠少でなかつた。従來箕面山の蛾としては鈴木元次郎氏、竹内吉藏氏等により多少の報告はあつたが何れも斷片的であつた處、本編には約660種が記録せられ、始めて當山蛾相の全貌を明にせられ、後進者の大に感謝しつゝある處である。

筆者は大正12年より戸澤氏の業蹟とは別箇に箕面山の蛾の採集に勉めつゝあり、其の結果の大同少異なりし事は當然であるが、中には報告價值有りと思ふ種も多少存在する様に感ぜらるゝので、今後斯る種を摘出して本表題の下に報告致し度いと思ふ。尙此等の種の同定に就いては乏しきをも顧みず筆者獨力之に當つた爲め重大なる過誤無きを保し難しと思はれるが此の點は先輩各位の御叱正を希ひ度い考へである。

本編に關しては戸澤信義氏及び鈴木元次郎氏より箕面山昆虫目録並に各種の文獻の惠投を受け、或は貸與して激勵せられ筆者の得たる利便は多大であつた事と、又常々御指導を辱うせる河田黨氏の御厚情とに對しては深き感謝の辭を捧ぐる次第である。

尚引用せる文獻中*を附したのは筆者の直接参照し得なかつたものである。

NOCTUIDAE ヤガ科

NOCTUINAE ヤガ亞科

Rivula angulata WILEMAN ヒメエグリアツバ (新稱)

Rivula angulata, WILEMAN, Trans. Ent. Soc. Lond., p. 267 (1911); WARREN, Seitz, Macr. Lep., Vol. III, p. 441, Pl. 75, Fig. k (1913).

顔面・下唇鬚・脚は褐色、頭頂・胸部・腹部等は淡紫灰色を呈す。

前翅表面：帯紫灰色。前横線は不明瞭にして褐色、前縁より發し外走して中室に達するや弓曲し其後は略外縁と並行して後縁に終る。外横線は判然せる白色の細線にして、先づ外走して中室外端に到り鈍頭を描き外縁と並行し直走して後縁に終る。本横線の内方は廣く黒褐色にして、外方の前縁には黒褐色の3角斑又後縁には不明瞭の黒褐斑を伴ふ。

後翅表面：暗灰色にして各横線は明瞭ならず。

前翅裏面：暗灰色にして翅基より外横線間は濃色。前縁は暗褐色なれども中央部1/3は黄褐色を呈す。黒褐色の横脈點を有する以外は全體表面と異らず。

後翅裏面：灰色の地色に黒褐色の横脈点を有す。外横線は筆者所蔵の1♂に於ては前縁中央の黒褐点より起り、第5脈上の同色点迄は外走し、以後は内方に直走して後角附近の後縁上の同色点に終る。其色黒褐色なれども、1♀に於ては僅に淡色の外横線を認め得るに過ぎず。外縁線は細き黒褐色線よりなる。

開張：♂♀ 18 mm 採集日附：9. VII. 1939. 1♂；23. VII. 1939 1♀

産地：箕面山（大阪府）。

分布：日本（本州）。

附記 原著には大和吉野に於て5, 6, 8月中に♂♀計10頭を獲た旨の記述がある。

ERASTRIANAE コヤガ亞科

Hyperstrotia albicincta HAMPSON ウチジロコヤガ（新稱）

Naranga albicincta, HAMP., Journ. Bomb. Nat. Hist. Soc., Vol. XI, p. 447 (1898).#

Hyperstrotia albicincta, HAMP., Cat. Lep. Phal., Vol. X, p. 556, Fig. 152 (1910); WARREN, Seitz Macr. Lep., Vol. XI, p. 286, Pl. 26, Fig. h (1913).

Rivula curvilinea, WILEMANN, Trans. Ent. Soc. Lond., p. 269, Pl. XXXI, Fig. 18 (1911); WARREN, Seitz Macr. Lep., Vol. III, p. 441, Pl. 74, Fig. 1 (1913).

觸角・下唇鬚・顔面・頸板は暗褐色。脚は灰褐色なれども、前脚の上面は特に濃色、跗節には白斑を有す。胸部及腹部は灰褐色。

前翅表面：總て淡色部は帶紫灰白色、濃色部は鋼様黒褐色を呈す。亞基線は褐色の小点なれども、不明瞭なる個體多し。前横線は前縁1/3の濃色部に於て前後に淡色線を伴へる濃色條として發出し、直ちに後縁と並行して外走し、中室端に於て中横線と融合したる後は鈍圓を描きて後退し、3個の黒褐点に變じて發出部直下の後縁に終る。但し此の線の明瞭なる個體は尠し、横脈點は白色新月形斑、大小形狀に變化多し。中横線は境界不鮮明なる太き濃色帯にして、横脈點を圍繞し、中室下隅に於て外横線と融合す。外横線は明瞭なる黒褐色の細線にして、内方に於ては上半部に、外方に於ては終始均等なる幅の淡色帯を隨伴す。亞外縁線は前縁に於て最も幅廣く、次第に狭細となり、外方に幅廣き淡色帯を有す。外縁線は黒褐色の細線。縁毛は淡色、中央に濃線を有す。

後翅表面：一様に暗色を呈す。

前翅表面：全面暗色、外横線は起始部のみ判然とし、外縁線は表面同様なり。

後翅裏面：暗色にして外縁線は前翅に同じ。

開張：春生 ♂♀ 20 mm, 夏生 15~20 mm。

成蟲の出現期：5~6月, 8~9月。

産地：箕面山（大阪府）、長谷寺驛附近（大和。參宮急行電鐵沿線）。

分布：日本（本州、九州）。インド（アツサム）。

附記 本種は箕面に於ては毎年獲られる種で、夏期に出現する個體は小型なもの多く、年2回の發生と思惟せられる。産地に就ては本州（大和國吉野）、九州（肥後國飯田山）の2箇所が原著中に記されて居る。又筆者の引用せる上記文献中 WARREN の圖は實際は本種でなく、*Bleptina curvilinea* LEECH l. c. p. 424, Pl. 74, Fig. 1) の圖である。

GEOMETRIDAE シヤクトリガ科

HEMITHEINAE アヲシヤクトリガ亞科

Comostolopsis rubripunctata* WARREN アカホシヒメアヲシヤク (新稱)Microlexia rubripunctata*, WARR. Novit. Zool., Vol. XVI, p. 125 (1909).**Pyrrhorachis rubripunctata*, PROUT, Gen. Ins., 129, p. 239 (1912)*; PROUT, Seitz, Macr. Lep., Vol. IV, p. 33 (1913); PROUT, Lep. Cat., 14, p. 162 (1913).**Comostolopsis rubripunctata*, PROUT, Seitz, Macr. Lep., Suppl., Vol. IV, p. 22, Pl. 3, Fig. g (1935).本種はコヨツメアヲシヤク *Comostola subtiliaria* BREML. に類似せる黄緑色の蛾なり。

觸角は ♀ に於ては鞭狀, ♂ にては羽狀を呈しその軸は白綠色なれども, 羽狀枝は淡褐色。下唇鬚及び脚は淡黄灰色。顔面は紅色, 頭頂は淡黄綠色。胸部上面は黄綠色なれども下面は淡黄灰色。腹部上面は黄綠色。中央及び兩側縁には各 1 條の淡色の少しく隆起せる線を尾端まで縦走せしめるも, 下面は黄灰色。

翅表面: 前後翅を通じて一様に黄綠色にして顯著なる紋様を有せず。前翅前縁には翅基の僅少部分を除きて淡色の帯を有し, 翅尖には紅色の前角小點を有す。横脈點は紅色小形にして特に前翅に於ては痕跡的なり。縁毛は淡色。

翅裏面: 兩翅共極めて淡白なるオリーブ色にして, 前翅前縁のみ淡黄褐色の帯を有し, 之に接し稍暗色を帯びたる部分あり。表面の横脈點は裏面に現れず。

開帳: 春生 20~24 mm, 夏生 16~18 mm.

成蟲の出現期: 5~6月, 8~9月。

産地: 箕面山 (大阪府)。 分布: 日本 (本州, 九州)。

附記 (1) 本種には生時既に白色化する個體が屢採集される事はコヨツメアヲシヤクの場合同様である。

(2) 本種は箕面山に於ては毎年獲られる種で, 同一場所に於て 1 年に 2 回採集せられ且つ春, 夏の採品は其の開張に大差ある故恐らく年 2 回の發生であらう。

筆者の所藏する展翅標本の採集日附及び開張は左表の如し。

採集日附	性	數	開 張
29 VI 1938	♂	2	20 mm
18 VI 1939	♂	1	20 mm
" " "	♂	1	21 mm
" " "	♀	1	24 mm
29 VIII 1937	♂	2	17 mm
5 IX 1936	♂	1	16 mm
" " "	♂	1	18 mm

(3) 本種は從來頗る珍奇な種と目されて居

り PROUT (l. c.) は「1 頭は鹿兒島に於て WILEMAN が 1898 年の 7 月に, 又他の 1 頭は同地に於て JONAS が 1900 年の 7 月に採集したのみである」と述べ後に (Suppl. l. c.) 「然るに第 3 匹目の標本の採集者は日本人の某採集家であつて産地は本州の Arima で, 此の標本は故 Mr. JOICEY の手を経て著者の所有となつたが, 前述 2 個の標本に比して完全な個體なる故, 之に基いて圖を描いた」と記述して居る。

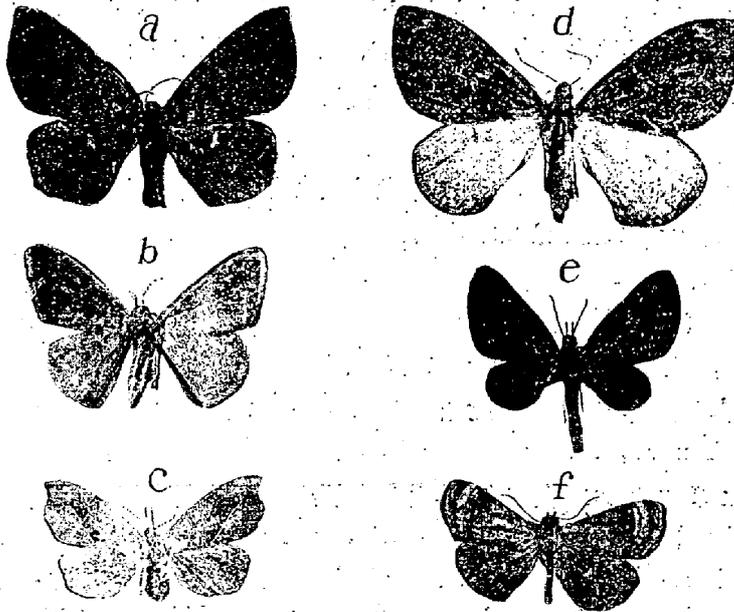
STERRRHINAE (ACIDALIINAE) セメシヤクトリガ亞科

Dithecodes erasa* WARREN シロモンアヲヒメシヤク (新稱)Dithecodes erasa*, WARREN, Nov. Zool., Vol. VII, p. 102 (1900)*; WILEMAN, Trans. Ent. Soc. Lond., p. 343 (1911); PROUT, Seitz Macr. Lep., Vol. IV, p. 46 (1913); PROUT, Nov. Zool., Vol.

XXXV, p. 295 (1930)*; PROUT, Lep. Cat., 61, p. 25 (1934)*; PROUT, Seitz Macr. Lep., Suppl., Vol. IV, p. 26, Pl. 4; Fig. b (1935).

Hemitheca vacua, SWINHOE, Trans. Ent. Soc. Lond., p. 671 (1902)*; WILEMAN, Trans. Ent. Soc. Lond., p. 338 (1911).

下唇鬚・頭頂・顔面は黒褐色。觸角は灰黄褐色。胸部上面・腹部上面は翅表面と同色なれども、之等の部分の下面及び脚は帯灰黄褐色。



第1圖 a シロモンアヲヒメシヤク ♀; b アカホシヒメアヲシヤク ♀; c ヒメエグリアツバ ♀; d シロシタトビイロナミシヤク ♀; e ヒゲブトナミシヤク ♀; f ウチジロコヤガ ♂; 何れも少しく擴大

分布：日本(本州)。

附記 (1) 本種は箕面山に於ては毎年獲らるゝ種で、年2回の發生を行ふものと信ずる。

(2) 本属の蛾は純然たるインドオーストラリア系に屬し、アフリカ及び熱帯アメリカにも分布し、日本産としては茲に記述せる1種が知らるゝのみである。

LARENTIINAE ナミシヤクトリガ亞科

Cidaria postalbida WILEMAN シロシタトビイロナミシヤク (新稱)

Cidaria postalbida WILEMAN, Trans. Ent. Soc. Lond., p. 325 (1911); PROUT, Seitz Macr. Lep., Vol. IV, p. 217 (1914); PROUT, Seitz Macr. Lep., Suppl., Vol. IV, p. 113, Pl. 11, Fig. c (1938).

顔面・頭頂・觸角・胸部上面・腹部上面・脚は栗色、胸部下面・腹部側縁及び下面等は淡栗色。

前翅表面：栗色の地色に白色の粉塵を撒布し、翅脈には屢白色の粉塵を装ひたる黒褐色線を顯出し、横線は總て黒褐色を呈す。前横線は外方に白線を伴ひ、基底を外方に置きたるW字形を示す。中横線は内方に白線を有し、少しく波状にして、前縁より第1脈迄は外方に弧を畫き、後外走し後縁に到る。横脈紋は黒褐色にして桿状。外横線は波状にして外方に白線

翅表面：兩翅共オリーブ様暗綠色にして、白色の中室紋を有するのみなれども時に外縁と並行せる濃色の外横線を有する個體あり。縁毛は淡色にして少しく黄色を帯ぶ。

翅裏面：兩翅共表面より淡色にして灰黄色を帯び、前翅中央部のみ少しく暗綠色を呈する以外總て表面に異ならず。

開張：♂♀ 春生 20~24 mm, 夏生 15~19 mm.

成蟲の出現期：6月及び8月。

産地：箕面山、能勢妙見山(大阪府)、東京(PROUT)、相模國大山(WILEMAN)。

を随伴し、前縁より第4脈迄は外走し、次いで第1脈迄は内走、後再び外斜して後縁に終る。此の線は翅脈上に於ては特に濃色なる場合多し。亜外縁線は外方に白線を有し、波状をなして第5脈迄は外走し以後は外縁と並行して後縁に終る。前角紋は黒褐色の斜條にして内方に白線を伴ひ、亜外縁と合す。外縁線は黒褐色線にして翅脈端は白色。縁毛は淡褐色、基部に白線を有す。後縁には翅基より外横線に達する黒褐色縦條を有し、内外兩横線間は最も判然とし、各横線に随伴せる白線により切斷せらる。

後翅表面：通例灰白色なれども時に前翅同様に栗色を呈する個體に遭遇する事あり。外縁線は前翅同様にして之に接する部分の地色は多少濃色を呈す。縁毛は前翅の夫より淡色。

前翅裏面：表面より遙に淡色、横脈紋及び外横線・亜外縁線等の前半部のみは判然せり。外縁線及び縁毛は表面同様。

後翅裏面：横脈紋及び外横線の痕跡を有し、地色及び外縁線竝に縁毛は表面同様。

開張：♂♀ 25~32 mm (WILEMAN によれば 36 mm)。

成蟲の出現期：4~5月, 9~11月。

産地：北海道(函館), 本州(東京より神戸間各地)。

分布：日本, 支那(四川省灌縣, 浙江省温州 PROUT による)。

附記 (1) 本種は近畿地方(京都, 箕面山, 大和)に於ては普通なる種で、年2回の發生ならんことは既に原著中に於て述べられてゐる(WILEMAN, l. c.)。

(2) 本種の觸角は輻状で、♂は♀に比して觸角が稍太い丈の差である。前・後翅の紋様は濃淡各様であるが、鮮明な個體は尠い。類似種として原著は *Cidaria comis* BUTLER クロオビナミシヤクを擧げて居り、實際は混同する場合も尠くないが、此の種の♂は明瞭なる兩節齒状の觸角を有して居り、又後縁上の暗色線の最短部は前、中兩横線間、最長部は中・外兩横線間で有るのに、*postalbida* に於ては此れと反對である。

Sauris nanaria LEECH ヒゲブトナミシヤク (新稱)

Sauris nanaria LEECH, Ann. Mag. Nat. Hist. (6), Vol. XX, p. 72 (1897)*; WARREN, Nov. Zool., Vol. XXXV, p. 305 (1930); PROUT (ex. err.), Seitz Macr. Lep., Vol. IV, p. 190 (1914); PROUT, Seitz Macr. Lep. Suppl., Vol. IV, p. 93, Pl. 9, Fig. e. (1936).

下唇鬚は黒褐色にして長く挺出し、觸角は黒褐色、先端に到るに従ひ棍棒状に肥大し、且つ少しく壓扁せらる。顔面・頭頂・胸部上面・腹部上面は暗褐色なれども、觸角間・頸板の一部・胸腹部背面間等には白色の横線を有し、腹部各節の中央には白點を有し、尾端は白色。胸部下面・腹部下面・脚は灰白色乃至灰褐色。

前翅表面：翅基には1小白點を有す。翅基より外横線間は少しく紫色を帯びたる暗色、各横線と合計通例9條の略並行せる濃色の横線を有す。之等の内、前横線は中脈迄外走して、後外縁と並行して後縁に終る。前横脈と横脈紋との間には外縁と並行せる數本あり。横脈紋は外斜せる桿状紋。外横線は3~4本より成り、後縁に到りて其の幅を減じ、外方には2本の白線を伴ふ。此の2白線は前縁より第6脈迄は鮮明にして、外方(即ち亜外縁線迄)は淡きオリーブ褐色を呈し、第4脈迄は不明瞭にして、外方は暗色を呈す。其以下は廣く白色にして亜外縁線に接して1本の暗横線を伴ふ。亜外縁線は極めて外縁に接し、之と並行す。外縁線は7~8個の黒點より成る。尙個體によりては内縁上に於て、(1)前横線より中横線に亘る黒褐

條と、(2) 外横線の終止部に斜置せられたる黒褐斑とを有するものあり。

後翅表面：全面暗色を呈す。後翅は前翅に比し頗る小形にして、♂の後縁基部には lobe を有す。

前後翅裏面：一様に暗色を呈し、基部は少しく淡色なり。前翅前縁には外横線の痕跡を有す。

開帳：♂♀ 19 mm~26 mm、春生は大型である。

成蟲の出現期：5~6月, 7~9月。

産地：箕面山, 能勢妙見山 (大阪府), Takao-san (PROUT, l. c.)。

分布：日本 (本州)。

附記 (1) 本種は大阪附近に於ては稀ならざる種で、筆者は年2回の發生と信ずる。大小、色彩、紋様の個體的變化は頗る著しい。

(2) 本属はインドオーストラリア系の属で、日本よりは2種知られて居り、他の1種 *S. nigrilinearia* LEECH は鹿兒島 (WILEMAN) より知られてゐる。